

## ダイナトレック、仮想統合 BI「DynaTrek 4」の 大規模ユーザー向け機能を拡張した「Version 4.1」を発表

信頼性やセキュリティ、検索能力の強化などにより  
大規模ユーザーにおける「統合情報系」としての利用が可能に

株式会社ダイナトレック(本社:東京都千代田区、代表取締役:佐伯譲二、以下ダイナトレック)は本日、仮想統合ビジネスインテリジェンス(BI)「DynaTrek 4」の新バージョン「Version 4.1」を、2010年7月26日より正式に出荷開始することを発表いたしました。今回新たに発表した「Version 4.1」では、大規模運用において必要な信頼性やセキュリティの高度化、検索能力の強化、幅広いユーザー層での使いやすさの向上を実現しており、多くの利用者がアクセスする大容量データを持つシステムにおいても、「DynaTrek 4」を通してシステム部門の管理における手間を大幅に軽減しながら、より自由度の高い「見える化」を簡単に実現することができるようになります。

昨今、市場のグローバル化や新たなリスク要因への対応、IFRS(国際会計基準)へのコンバージョンなど、企業を取り巻く環境においては大きな変化が起こっており、環境変化に対して迅速かつ的確に適応するため、企業は限られた予算の中で、より大量かつ広範囲のデータを分析していく必要があります。このような状況において、現在の多くの情報系システムにおいては、ユーザーが必要とするビジネス情報を提供するために、乱立するバッチプログラムや膨大な種類の間テーブルの管理を行わねばならず、システム部門は多くの時間やコストを割く必要がありました。またユーザーは、環境変化への対応に必要な新たな情報を手に入れるため、データの準備やレポートの作成に時間がかかりすぎるといった問題がありました。

「DynaTrek 4」では、独自技術である仮想データベース\*1の採用により、ユーザーの利用する項目と分散した複数のデータソースの関係を定義する横断的なデータマップを登録するだけで、分散したデータソースを統合し、ユーザーが必要な情報を提供することができます。これにより、既存の BI システムと比較し、中間テーブルとバッチプログラムを大幅に削減することができるため、これらの作成や管理における工数、及びサーバーや通信リソースを大幅に削減しながら、企業を取り巻く環境の変化に応じてデータ分析項目の追加やデータソースの変更に柔軟に対応することができます。

さらに今回の機能強化では、特に大規模運用における信頼性や検索能力の強化、セキュリティの高度化、ユーザー検索機能のさらなる向上が図られています。これにより、大規模ユーザーが、ツールやデータソース毎に分散していた情報系を、「DynaTrek 4」を利用して既存のデータを活かしながら一つのシステムにまとめ、「統合情報系」を構築することが可能となります。

「DynaTrek 4 Version 4.1」の標準価格は、標準構成(1CPU(2コア)、3データソース)で9,375,000円(税別)で、当社ならびに販売代理店を通して販売を行います。

## 用語解説

仮想データベース\*1:

ユーザーの見た情報と、実際にデータベースに格納されているデータ、及びそれらの間の相互関係(変換方法)をデータマップとして登録しておき、ユーザーからの検索リクエストに基づきデータマップに定義された検索・変換・統合を自動処理して、ユーザーに必要な情報をダイレクトに提供する仕組み。

## 「Version 4.1」で追加された新機能

### 1. 大容量データの検索/出力能力の強化

従来の BI ツールでは困難だった、数百万件の大量データの連続出力について、DynaTrek のメモリ・マネジメント機能の強化により、複数ユーザーが同時多重で実行しても安定的に処理できるようになりました。またメモリ型高速エンジン、超並列検索エンジンなど最先端のデータベース・エンジンとの連携、および DynaTrek の内部処理ロジックの改善により、数10億件オーダーのデータを数秒(インデックス検索時)から数分(フル検索時)で処理することが可能となりました。

### 2. 運用管理やアクセス権限管理機能の向上によるセキュリティの強化

運用ログ出力方式の動的設定、SQLレベルでのアクセス・ログ出力、検索結果データの一定期間保持など、データセンター等での集中運用に対応できるようセキュリティおよび運用管理機能を向上させました。また、ユーザーロールごとの参照権限設定や SQL 選択条件の動的設定により、大規模運用において必要とされるきめ細かなアクセス権限管理を実現しました。

### 3. 接続可能なデータソース種類の増加

すでに「DynaTrek 4」では JDBC (ODBC)接続が可能なデータベースには接続することが可能ですが、「Version 4.1」では、さらに大手 ERP ソフトや各種メモリ型データベースとの接続に対応しました。

### 4. 上級ユーザーから一般ユーザーまで幅広いユーザー層での使いやすさの向上

上級ユーザー向けに高度な検索条件設定機能を強化したほか、項目アラート表示などエンドユーザー向けのプレゼンテーション機能を改良しました。また組織内のグループでの共同作業を支援するため、グループ・ライブラリ機能、検索結果の共有機能などが追加されました。

以上

## 株式会社ダイナトレックについて

株式会社ダイナトレックは、仮想統合 BI「DynaTrek」シリーズ、及びコンパクト ETL ツール「DynaBridge」を中心として、業務情報と異種分散データベースの統合分野において、先進的な製品の開発・販売・導入を行っています。同社の製品は世界約 350 社において導入されており、製造業、通信業、官公庁、金融機関などにおける「統合情報系」の構築において豊富な実績がございます。企業情報の詳細については <http://www.dynatrek.co.jp/>をご参照ください。

所在地： 東京都千代田区内幸町1-1-1 帝国ホテルタワー  
代表取締役： 佐伯 譲二  
設立： 平成 11 年 12 月 24 日

## 【報道関係者お問合せ先】

株式会社ダイナトレック  
広報 佐伯 卓也  
TEL (03)3539-1561 FAX (03)3539-1562  
Email: takuya@dynatrek.co.jp  
URL: <http://www.dynatrek.co.jp/>

## 【お客様からのお問い合わせ先】

株式会社ダイナトレック 営業担当  
TEL (03)3539-1561 FAX (03)3539-1562  
URL: <http://www.dynatrek.co.jp/>